

有田中央高等学校清水分校

実施日時	①令和3年11月5日(金) ②令和3年12月10日(金)
参加者	生徒5名、教職員8名 計13名
実施内容	①「世界津波の日」地震避難訓練、土砂災害について ②防災スクール「避難所運営」

ねらい

1 地震発生時にそれぞれの場面に応じた身の安全を確保する行動をとるなど、適切な対応行動を身に着けるとともに、日頃から地震に対する防災意識を高める。

また、土砂災害について、清水周辺は山地であり、身近に起こりえる災害であるため、土砂災害について正しい知識、備えを身につける。

2 全生徒、全教職員の共通理解と協力のもと応急処置、救急体制の習熟に努め、事故防止や安全能力の育成を図る。

主なプログラム

1 「世界津波の日」地震避難訓練、土砂災害について

シェイクアウト訓練、避難誘導、救護体制の訓練、「世界津波の日」「稲むらの火」に関する講話
わかやま土砂災害マップの確認、避難所マップの確認、避難カード記入



2 防災スクール「避難所運営」

自衛隊の協力で、応急担架体験、ロープワーク、人命救助システム体験、防災講話



概要

1 「世界津波の日」地震避難訓練、土砂災害について

地震発生時の身を守る行動、避難経路の確認を行い、緊急地震速報試験放送により実際にグラウンドに避難。その後、講話により「世界津波の日」「稲むらの火」の由来について学習した。また、わかやま土砂災害マップで清水分校周辺の状況を確認、清水分校体育館が避難所となっていることを確認し、どのような行動を取るべきかを学習した。

2 防災スクール「避難所運営」

自衛隊和歌山地方協力本部による、体験と防災講話。

- ・ 応急担架体験、ロープワーク、人命救助システム体験
- ・ 災害時にとるべき行動について
- ・ 阪神淡路大震災、東日本大震災に災害派遣された隊員による救援活動について

参加者感想文

- ・ 事前に避難所を確認し、早めの行動が必要になるとあらためて思った。
- ・ 避難カードを書くとき家族でも話し合おうと思った。
- ・ 震災の様子がよくわかり、避難することの大切さや、家族の大切さを再認識できた。

成果と課題

【成果】地震・避難訓練では、予防・対策、家族会議の必要性を感じたという感想があったことから、身をもって体験できたと思う。学校がある清水地区は、山間部に位置し、土砂災害は、身近に起こりえる災害であり、清水分校体育館が避難所になっていることから、生徒たちは、自分のこととして考えることができたと思う。防災スクールの防災講話では、実際に災害派遣された隊員の話であるので、心に残る内容であった。生々しく恐怖感を覚える場面もあったが、被災しないためには何をすればいいのか、どのような備えが必要なのかを考える良い機会となった。避難所運営では、体育館が避難所になっていることや応急担架などの体験から、率先して避難所運営に携わろうとする姿勢が養われた。

【課題】山間部のため津波は想定外であるが、土砂崩れや路面崩壊による交通の遮断や、電柱や電線の損壊による停電の被害は十分予想される。過去には、大きな台風の影響で、有田川町の山間部で停電が長期間続き、分校の生徒の中には10日以上停電状態だった者もいた。学校のある地域は比較的早く復旧したが、電話・インターネットはもちろん携帯電話も不通になり、生徒や有田中央本校との連絡もできなかった。災害後の状況に対応できる体制づくりが必要である。新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、9月予定していた防災スクールを12月に延期した。一方で、清水分校体育館は避難所となっている。実際に避難所となった場合の感染対策が課題である。